

「神の何を信じているのか」

主任牧師：重田 稔仁

<創世記 24章 1～10節 新共同訳>

-イサクとリベカの結婚-

アブラハムは多くの日を重ね老人になり、主は何事においてもアブラハムに祝福をお与えになっていた。

アブラハムは家の全財産を任せている年寄りの僕に言った。

「手をわたしの腿の間に入れ、天の神、地の神である主にかけて誓いなさい。あなたはわたしの息子の嫁をわたしが今住んでいるカナンの娘から取るのではなく、わたしの一族のいる故郷へ行って、嫁を息子イサクのために連れて来るように。」

僕は尋ねた。

「もしかすると、その娘がわたしに従ってこの土地へ来たくないと言うかもしれません。その場合には、ご息子をあなたの故郷にお連れしてよいでしょうか。」

アブラハムは答えた。

「決して、息子をあちらへ行かせてはならない。天の神である主は、わたしを父の家、生まれ故郷から連れ出し、『あなたの子孫にこの土地を与える』と言って、わたしに誓い、約束してくださった。その方がお前の行く手に御使いを遣わして、そこから息子に嫁を連れてくることができるようにしてくださる。もし女がお前に従ってこちらへ来たくないと言うならば、お前は、わたしに対するこの誓いを解かれる。ただわたしの息子をあちらへ行かせることだけはしてはならない。」

そこで、僕は主人アブラハムの腿の間に手を入れ、このことを彼に誓った。僕は主人のらくだの中から十頭を選び、主人から預かった高価な贈り物を多く携え、アラム・ナハライムのナホルの町に向かって出発した。

<

<メッセージ>

ポストコロナの時代は政治、経済、教育、グローバル世界のあらゆる分野で将来が予測不可能だと言われていますが、そんな不確かな時代にあって私たちは何を足場に生きてらよいか?!

身近な人間関係 家族 仲間 共同体

財産

情報

健康

私たちがここ数週間、旧約聖書の創世記の物語から着目しているアブラハムは、神への信頼を人生の拠り所として不確かな時代を生き抜いた人物です。

今朝は、アブラハムの人生から神への信頼を拠り所に生きる人の幸いについて一緒に見てみたいと思います。

朗読 創世記 24:1~9

アブラハムは、人生の最終章で妻サラを亡くし、困難な現実と向き合っていました。それは妻亡き後、愛する独り子イサクが未だ独り身で、彼の伴侶を探すための良きアドバイザーを失ったからです。そこでアブラハムは、息子イサクの伴侶を迎えるため僕アビメレクをアブラハムの故郷に送り出しました。そのことについてアブラハムが僕に要求したことが 24:2 に書かれています。

[1] イサクの伴侶をアブラハムの故郷から迎える。

[2] [1] が叶わない場合は、イサクをアブラハムの故郷に連れて行ってはならない

疑問（1）

アブラハムは何故、故郷から息子イサクの嫁を迎えようとしたのか。

それは、アブラハムは神がイサクの伴侶を親族が暮らす故郷ハランに用意してくださると信じていたから。

なぜなら、[それが] 神のアブラハムへの約束の成就に欠かせないことを知っていたから。すなわち主がアブラハムの子孫の神となるために、イサクの伴侶は同じ信仰を共有するアブラハムの親族から迎える必要があった。（カナンの人々はアブラハムにとって異教徒）

〈信仰はアイデンティティー〉

創世記 17:7 新共同訳

「わたしは、あなたとの間に、また後に続く子孫との間に契約を立て、それを永遠の契約とする。そして、あなたとあなたの子孫の神となる。」

疑問（2）

アブラハムは何故、僕にイサクを故郷に連れて行ってはならないと命じたのか。

それは神がカナンの地をアブラハムと子孫に与えると約束していたから。つまりアブラハムが神の約束の成就を人生の最重要課題としていたからです。（創世記 15:7、15:18）

疑問？

アブラハムにとって、彼の故郷からイサクの伴侶を求めることが神のみ心であることは、わかったとして、アブラハムに葛藤はなかったか。何が言いたいか。

カナンから嫁を迎えることに比べ故郷ハラんで嫁探しをするのは不確実でリスクが大きかったのでは？

(莫大な財産を僕に委ねた)

創世記 24:10

アブラハムは、目の前の現実と主の約束の間で迷いはなかったのか。迷いがあつたとすればどうやってアブラハムはその迷いの中で決断し、行動したのか。

信を真に置いたアブラハムは主の真実を拠り所として、予測不可能な将来に向かって足を踏み出した。アブラハムはモリヤの山で約束の子イサクを捧げた体験から主が約束を守る真実な方だということ体験的に知っていた。

創世記 22:15

創世記 24 章のアブラハムの物語が教える信仰の本質について問い

私たちは神の何を信じるのか。

私たちは神の真実を信じる

神の真実とは！

それは神は約束をやぶらず、違えず、約束を成就する方だ！ということ。

アブラハムは主の真実により頼んだ！

主の真実により頼むものの幸いとは？!

それは、アブラハムと主がそうであったように真実か主と運命共同体になるということです。

主はアブラハムにソドム、ゴモラ滅亡を予告したとき、アブラハムを主の計画を実現する大切なパートナーとして認めていました。

創世記 18:16~

主にとってアブラハムは唯一無二の友

まとめ

私たちクリスチャンも主イエスにあって主と運命共同体にあります。

ヨハネ 15:5

「わたしはぶどうの木、あなたがたはその枝である。人がわたしにつながっており、わたしもその人につながっていれば、その人は豊かに実を結ぶ。わたしを離れては、あなたがたは何もできないからである。」

ヨハネによる福音書 15:5 新共同訳

私たちにとって主は唯一無二の神ですが、主にとって私たちも唯一無二の存在です。私たちにとって主が代わることのない存在であるように、主にとってあなたに代わる存在はない！これがアブラハムの信仰物語が教えていることです。

みなさん、主の真実により頼み、主の約束に従い不確かな時代にあって大胆に誇らしく生きていきましょう！

ヨハネ 15:5

「わたしはぶどうの木、あなたがたはその枝である。人がわたしにつながっており、わたしもその人につながっていれば、その人は豊かに実を結ぶ。わたしを離れては、あなたがたは何もできないからである。」

ヨハネによる福音書 15:5 新共同訳